

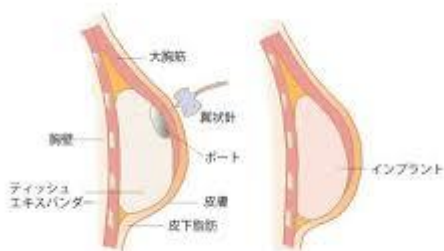
乳房再建について

乳癌は、日本で女性が最もなりやすい癌であり、他の癌に比べ、30代以降の若い方に多いのが特徴です。**乳房再建とは、乳癌で失った乳房の膨らみを、手術で取り戻すことです。**

再建方法

	自家組織による方法	人工乳房（インプラント）を用いる方法
手術時間	4-10 時間	2 時間
入院期間	2-3 週間	1 週間
触り心地	軟らかい	やや硬い
傷跡	組織を採取した部位（腹部 or 背部）に傷が増える	乳房切除時の傷のみ
費用	健康保険が使用できる	
欠点	移植組織が壊死に陥る可能性がある	破損・感染等のリスクがある 下垂乳房の再建が困難である

インプラント法



ティッシュ・エキスパンダー
(ナトレル®133)



インプラント アナトミカル型
(ナトレル®410) いずれもアラガン社製

インプラント法は、まずエキスパンダーを大胸筋下に挿入し、注水して皮膚を伸ばし、半年後を目安に、シリコン製のインプラントに入れ替えて再建する方法です。

当院は、2015年4月より乳腺専門医（外科：尾山）と形成外科専門医（形成外科：台蔵）が連携し、希望がある患者さんに対して、乳癌の手術と同時に乳房再建を行っています。

再建方法は、自家組織とインプラントによる方法、それぞれに利点と欠点があるため、基本的には患者さんの希望に応じて決定します。

インプラント法は、手術侵襲が少なく、新たな傷を作らず再建できる利点がありますが、以前は自費診療であったため、経済的な問題がありました。2013年7月より経験年数を積んだ専門医がいる施設のみで保険診療が可能となり、当院も認定されています。

再建時期は、いつでも可能です。以前に乳癌の手術を受けられた方も、特殊な例を除き、再建できることが多いので、遠慮なく相談して下さい。

乳房再建を行うことで、乳房の喪失感が解消され、他人の視線を気にせず温泉にも行けるため、日常生活は非常に改善します。

悩んでいる患者さんがいらっしゃいましたら、厚生連高岡病院の形成外科を受診して頂ければ幸いです。